

7 まとめ（提言等）

国際協力事業等訪問調査は、4月11日（火）から15日（土）までの5日間の日程で、マレーシア国及びシンガポール共和国を12名の団員にて調査を行い、廃棄物行政官庁や住民自治会、日本の民間企業が参加する廃棄物発電施設（清掃工場）の建設現場など訪問する先々で、廃棄物処理の問題に対する国や住民の方々の思いや考えを直接感じ取れる貴重な機会となりました。また、清掃一組が実施している清掃事業国際協力の成果を確かめることができました。そこで、今回の調査をもとに3つの提言をいたします。

【提言1】

廃棄物処理における住民の意識啓発などの課題は、マレーシア以外の国、特に東南アジア諸国に於いても同様に発生しているため、今後は相手国と23区及び清掃一組の行政としての関係を引き続き維持・発展していく必要がある。

マレーシア国都市福祉・住宅自治省では、「JICAを中心とした来日研修での、講義や施設見学は、大変実りが大きかったものであり、23区及び清掃一組との協力で多くのことを得ることができた。それにより、23区を持つ廃棄物処理の知見が高いことを再認識させられる機会となった。」という話に続き、マレーシア国家廃棄物管理局から、「解決すべき課題の一つは、排出源での分別などに関する適正な廃棄物処理についての住民の意識啓発である。」という話がありました。これは、マレーシア国に限らず、東南アジア諸国においても同様に発生している課題であるので、清掃一組は、可能な範囲で相手国と協力して解決していくべきものと考えます。

【提言2】

住民と協働した廃棄物管理行政推進の取組は、有益な成果があったことを確認した。今後も住民と共に問題を解決する取組は、他国に於いても有用であり、23区と清掃一組が従前から保有、蓄積しているノウハウであるため、引き続き事業を展開していく必要がある。

サンウェイSPKダマンサラ自治会では、「草の根技術協力事業を通して学んだことの一つとして、ごみと資源の分別方法に関するわかりやすい説明があげられる。」という話がありました。23区ではイラストや写真を使いわかりやすく表示されているという、ごく日常的なことも、海外に於いては目覚めるきっかけとなったことが、団員にとっても気づきの一つとなりました。また、分別方

法や自治会内の取組状況などの情報伝達・交換を、住民やNGO自らがフェイスブックなどのSNSを利用して行われていることなどは発展的なことだと感じました。そして、クアラルンプール市当局とも連携を取り、住民・NGO・市当局と共通の目的に向かって廃棄物処理の進展に熱意をもって取り組んでいることは大変素晴らしいことであり、感銘を受けました。草の根技術協力事業を実施した他の自治会に於いても、訪日したメンバーが自治会内のリーダーとなって東京で経験した事を地域内に広げている積極的な活動報告もありました。

このようなことから、住民と協働した廃棄物管理行政推進の取組は、有益な成果があったことが確認できました。住民と共に問題を解決する取組は、23区と清掃一組が従前から保有、蓄積しているノウハウであるので、今後もこのノウハウを活かして他国においても引き続き事業を展開していく必要があると考えます。

【提言3】

マレーシア国、シンガポール共和国の廃棄物発電処理設備の整備においては、環境保全やエネルギー効率を重視し、23区で実績のある日本企業の廃棄物発電の技術が採用されている。これらの視点は、清掃一組の理念とも合致している。今後の23区の清掃工場の建替えでも、これらを十分考慮した施設整備を引き続き実施していく必要がある。

マレーシア国は日本と比較すると、経済などの発展がここ数十年で著しくなると共に、環境や廃棄物の問題が顕在しているところですが、クアラルンプール市周辺に廃棄物発電施設が建設され、今後より一層の廃棄物問題解決に向けた取組が進められていることがわかりました。

また、シンガポール共和国では、廃棄物処理においては、政府から高い効率性が求められており、発電能力や経済面での有意性こそが最重要視されています。この方針に基づいて、日本企業の技術を取り入れ、新しい発電施設が整備されています。

環境保全、エネルギー効率の向上を目指すことは、清掃一組の理念と合致するところであり、今後の清掃工場の建替工事においてもこの点に十分配慮することが必要と考えます。

今後も、当議会では、時代や地域性に合った清掃一組の今後のあり方を研究し、行政に提言してまいります。